

病害虫発生予察情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

5月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	イネミズソウムシ	多い	やや早い	果樹	りんご	キンモンホソガ	並	-	
	イネソウムシ	多い	やや早い			アブラムシ類	並	-	
	イネドロオイムシ	並	並		日本なし	黒星病	並	-	
大麦	うどんこ病	並	-			ナシヒメシンクイ	多い	-	
	大豆	タネバエ	並			並	ハマキムシ類	少ない	-
ネキリムシ類		多い	-		ハダニ類	多い	早い		
野菜	野菜全般	ネキリムシ類	多い		-	ぶどう	黒とう病	並	-
	たまねぎ	べと病	少ない		-		灰色かび病	少ない	-
		白色疫病	少ない		-		べと病	並	-
	白ねぎ	ネギアザミウマ	多い		早い	もも	せん孔細菌病	並	-
		カメムシ類	多い		-		モモハモグリガ	少ない	早い
果樹	果樹全般	カメムシ類	多い		-	ナシヒメシンクイ	多い	-	
	りんご	黒星病	少ない	-	花き 球根	チューリップ	褐色斑点病	並	-
		褐斑病	多い	-			球根腐敗病	やや多い	-
		うどんこ病	少ない	-			モザイク病	並	-
		ハダニ類	多い	早い			アブラムシ類	やや多い	-

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稻

1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年5月20日の調査では、被害葉率が5.3%と平年(0.8%)より高く、近年は増加傾向にある(図2)。(+)
 - ・4月上中旬の気温は平年に比べ高かった。(早発)
 - ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(+)

- (3) 防除対策
- ・イネミズゾウムシに登録のある育苗箱施薬剤等を使用する。
 - ・要防除水準(0.3頭/株)を超える場合は、粒剤による本田防除を実施する。
 - ・防除指針：20～30、38ページ参照



図1 イネミズゾウムシとその食害

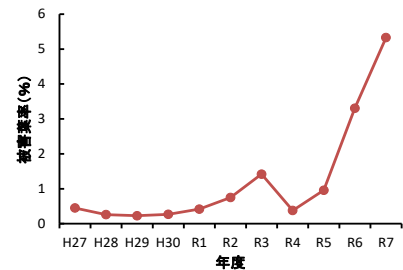


図2 イネミズゾウムシによる被害葉率の年次推移(5月20日調査)

2 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年5月20日の調査では、被害葉率が0.31%で平年(0.06%)より高く、近年増加傾向にある(図4)。(+)
 - ・4月上中旬の気温は平年に比べ高かった。(早発)
 - ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(+)

- (3) 防除対策
- ・イネゾウムシに登録のある育苗箱施薬剤等を使用する。
 - ・防除指針：20～30、38ページ参照



図3 イネゾウムシ(左)とその食害(右)

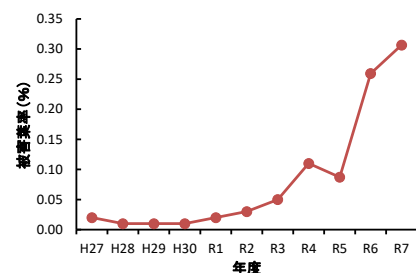


図4 イネゾウムシによる被害葉率の年次推移(5月20日調査)

3 イネドロオイムシ

(1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年5月20日の調査では、被害葉率が0%で平年並(0.0%)であった。(±)
- ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・前年度の発生が多くみられたほ場では、イネドロオイムシに登録のある育苗箱施薬剤等を使用する。
- ・防除指針：20～30、39 ページ参照



図5 イネドロオイムシの幼虫とその食害

II 大 麦

1 うどんこ病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・4月25日の調査では、発病度は0.0で平年(2.0)より低かった。(－)
- ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針：52ページ参照



図6 うどんこ病のり病葉

III 大 豆

1 タネバエ

(1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・5月24日にかけて降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・タネバエに登録のある種子塗沫剤を使用する。
- ・早期播種や堆肥及び緑肥施用等、有機物の多いほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針：55、57 ページ参照

2 ネキリムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～5半旬の誘殺数は55頭で平年(36.9頭)より多かった。(＋)
- ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ネキリムシ類に登録のある種子塗沫剤を使用する。
- ・ほ場周辺の雑草は、は種予定日の1週間程前に刈り取る。
- ・防除指針：55 ページ参照



図7 粘着板で誘殺されたカブラヤガ(左)とタマナヤガ(右)

IV 野菜

1 ネキリムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～5半旬の誘殺数は55頭で平年(36.9頭)より多かった。(＋)
- ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・出芽後は定期的にはほ場を巡回し、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、は種・定植の1週間程前に刈り取る。
- ・防除指針：73～132 ページ参照

2 たまねぎのべと病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・4月25日の調査では、発病度は0で平年(1.8)より低かった。(－)
- ・5月24日にかけて気温は高いと予想されている。(－)
- ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている(±)



図8 べと病の二次伝染株(左)と病斑(右)

(3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底するとともに、分生胞子の飛散による二次感染を防ぐため、防除を実施する。
- ・防除指針：105ページ参照

3 たまねぎの白色疫病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月25日の調査では、発病度は0で平年（1.8）より低かった。（－）
 - ・ 5月24日にかけて気温は高いと予想されている。（－）
 - ・ 5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・ 本病は水媒伝染するため、降雨前後に防除を実施する。
 - ・ 防除指針：106ページ参照

4 たまねぎ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月の気温は平年より高かった。（＋、早発）
 - ・ 5月24日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・ 5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 多発すると生育が遅れるため、発生初期に防除を実施する。
 - ・ 防除指針：たまねぎ106～107、白ねぎ103ページ参照

V 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の発生量は平年並であった。（±）
 - ・ 5月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・ 発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド系、有機リン系殺虫剤等）を散布する。
 - ・ 防除指針：りんご 144、148～149 ページ、日本なし 151、156、160～161 ページ、ぶどう 167 ページ、かき 171～172 ページ、もも 173、175～176、178 ページ参照



図9 チャバネアオカメムシの成虫（左）と卵（右）

2 りんごの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・5月24日にかけての降水量はほぼ
平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が
10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：137、140～142、147 ページ参照



図10 黒星病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

3 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(＋)
- ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並
と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日
以上開かないように注意し、雨前防除を
徹底する。
- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、春先からの薬剤の散布
量を十分確保する。
- ・防除指針：137、140～142、147ページ参照



図11 褐斑病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

4 りんごのうどんこ病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並
と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・被害枝、果（花）そうは見つけ次第せん除し、
園地外に持ち出して処分する。
- ・防除指針：137、140～142、147 ページ参照



図12 うどんこ病のり病葉

5 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
- ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋、早発)
- ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

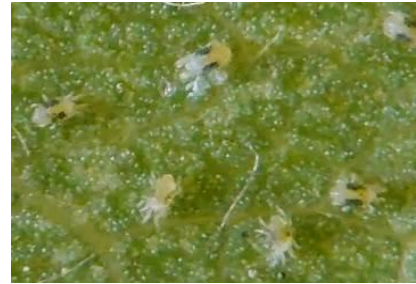


図13 ナミハダニの成虫

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを定期的実施し、下草での増殖の低減に努める。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
- ・防除指針：144～146、148～149 ページ参照

6 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は0.0頭で平年(0.7頭)より少なかった。(－)
- ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)



図14 キンモンホソガによる被害葉

(3) 防除対策

- ・発生が多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーAAを設置する。
- ・防除指針：137、143～144、148 ページ参照

7 りんごのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は少ない。(－)
- ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・発生が多い園地では、ネオニコチノイド系殺虫剤を速やかに散布する。
- ・防除指針：137、144、148～149 ページ参照



図15 コブアブラムシの被害葉

8 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 4月1～4半旬の子のう胞子の飛散量は、前年よりやや少なかった。(－)
- ・ 4月下旬の芽基部病斑は、前年よりやや多かった。(＋)
- ・ 5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図16 芽基部病斑（左）と葉の春型病斑（右）

(3) 防除対策

- ・ 芽基部病斑やり病した葉、幼果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・ 降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・ 防除指針：151、153～155、159 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は17.8頭で平年(3.9頭)より多かった。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 5月中下旬の防除を徹底する。
- ・ 発生が多い園地では5月上旬を目途にコンフューザーNを設置する。
- ・ 防除指針：151、155～156、160～161 ページ参照

10 日本なしのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 現在の発生量は少ない。(－)

(3) 防除対策

- ・ 食害果(花) そう及び葉は、摘み取って処分する。
- ・ 第一世代幼虫発生時期(5月中下旬)の防除を徹底する。
- ・ 発生が多い園地では、ディアナWDG(10,000倍)を散布する。また、5月上旬を目途にコンフューザーNを設置する。
- ・ 防除指針：151、155～156、160～161 ページ参照



図17 ハマキムシ類による被害
花そう

11 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
 - ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋、早発)
 - ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを定期的実施し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする(アカリタッチ乳剤は除く)。
 - ・防除指針：157～158、160～161ページ参照

12 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図18 黒とう病のり病葉(左)とり病果(右)

- (3) 防除対策
- ・り病枝やり病葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：162、164～166ページ参照

13 ぶどうの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・新梢管理を行い棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
 - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、フルピカフロアブル(3,000倍)を散布する。
 - ・防除指針：162、164～166ページ参照

14 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・発生の多い園地では、5月中旬のマンゼブ水和剤をリドミルゴールドMZ（1,000倍）に変更し散布する。
 - ・防除指針：162、164～166ページ参照

15 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(一)
 - ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・春型枝病斑は見つけ次第せん除し、処分する。
 - ・発生の多い園地では、デランフロアブルやチラウム水和剤にマイコシールド（3,000倍）又はバリダシン液剤5（500倍）を加え散布する。
 - ・防除指針：173～175、178ページ参照



図 19 せん孔細菌病の春型枝病斑

16 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は少なかった。(一)
 - ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策
 - ・発生の多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：173、175～176、178ページ参照

17 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は7.0頭で平年（2.0頭）より多かった。（+）
- (3) 防除対策
 - ・発生の多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：173、175～176、178ページ参照

VI 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：**並**
- (2) 予報の根拠
 - ・4月20日の予察ほ場（無防除）における‘レッドエンペラー’の発病株率は36.7%で平年（50.7%）よりもやや低かった。（-）
 - ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
 - ・5月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・殺菌剤を定期散布し、摘花直後の散布を徹底する。
 - ・防除指針：192ページ参照



図20 褐色斑点病の小型病斑（左）と大型病斑（右）

2 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・植え付け時（10月下旬、11月上旬）の地温は平年並に推移した。（±）
 - ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。（+）
 - ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・停滞水とならないようにほ場の排水に努める。

3 チューリップのモザイク病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。(±)

(3) 防除対策

- ・モザイク病り病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類を定期的に防除する。
- ・防除指針：193、215～216 ページ参照



図 21 チューリップモザイクウイルス (TuMV) のウイルス感染株 (左) と健全株 (右)



図 22 ユリ潜在ウイルス (LSV) のウイルス感染株 (左) と健全株 (右)

4 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・予察は場への有翅虫の初飛来日 (4月3日) は、平年 (4月13日) より早かった。(+)
- ・5月24日にかけての気温は高いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の除草対策を徹底する。
- ・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病り病株の抜き取りを徹底する。
- ・防除指針：193、215～216 ページ参照



図 23 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

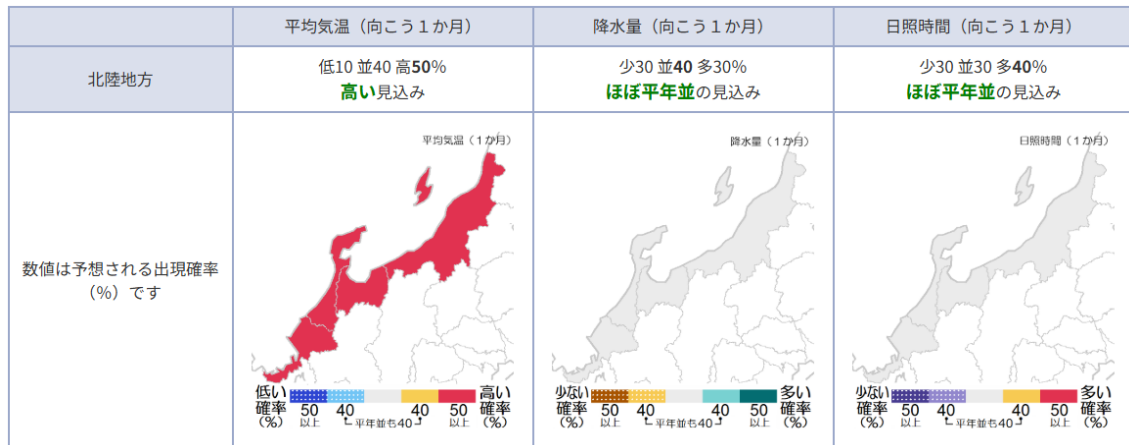
- ・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。
- ・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。

北陸地方 1か月予報

4月23日
新潟地方气象台 発表

<向こう1か月(04/25~05/24)の天候の見通し>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu>)
より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

